

会 議 録

会議の名称		第4回（仮称）研究学園小学校、研究学園中学校 開校準備委員会			
開催日時		令和4年2月17日（木） 開会 18：30 閉会 20：00			
開催場所		つくば市役所 4階 ミーティング室			
事務局（担当課）		教育局 学務課			
出席者	委員	稲川綾子、菅典子、橋本恭子、小泉悠、鈴木夕紀子 伊藤町香、相澤健太郎、野尻敏弘、富岡暁子、槇幸子 石黒正美、岡野知樹、原広子			
	事務局	教育施設課課長補佐大口勝也、教育施設課主事小池祐輝 学び推進課参事岡田太郎 学務課課長下田裕久、学務課課長補佐東泉学 学務課係長中山美希、学務課主任藤田智子 学務課主事白土直也、学務課主事霜鳥壮彦			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開		傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由					
議題		(1) 校名案のアンケート結果及び選定について (2) 校章案のデザイン募集及び制作について (3) 制服・体操服の選定について			
会議録署名人				確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開 会 2 議 事 (1) 校名案のアンケート結果及び選定について (2) 校章案のデザイン募集及び制作について (3) 制服・体操服の選定について 3 その他 4 閉 会				

<審議内容>

1 開会

2 議事

事務局：ただいまから、第4回（仮称）研究学園小学校、中学校開校準備委員会を開催いたします。それでは、これより議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。ではよろしくをお願いいたします。

委員長：皆さんこんばんは。これからまた進行させてもらいますので、よろしくをお願いします。まず、今日は傍聴の方がいらっしゃるかがでしょうか。

事務局：本日傍聴人はございません。

委員長：はい、了解しました。では、議事に従って進めていきたいと思います。今日の議事に関しましては、校名のアンケートの結果を取りまとめたのだと思いますので、この委員会の中で一点ですかね、選定していくということで、決定するのは教育委員会とか市議会ということだと思んですけども、そちらに提案していくための絞り込みをするという形なのかなと考えております。二点目が、校章案のデザイン募集並びに制作の仕方を決めていくという点、三点目が制服について、どういうふうに進めていくかをまず教えていただくような形で、今日決めていくってということじゃないのかなと思っているんですけども、事務局の方々、議題はそれでよろしかったでしょうか。

事務局：おっしゃるとおりでございます。ありがとうございます。

委員長：わかりました。では議題の一つ目のですね、校名案アンケート結果及び選定について、まずアンケート結果ですね、事務局の方からご説明をお願いします。

事務局：事務局です。資料はお手元にございますでしょうか。または画面で見ている方もいらっしゃるかと思いますけれども、右上に資料 2 と書かれたものが、校名案アンケートの実施結果となっております。一番上のところがですね、設問 1 として、小学校と中学校の校名は一緒がいいのか、別々がいいのかというところで、同じ名前がいいと答えられた方が、およそ約 9 割 88%の方、また違う名前がいいとおっしゃっていた方は 12%でした。最終的にこの結果になりますけれども、2 番の記載の通りでございます。研究学園小学校、研究学園中学校のところが、大体 40%ほどの票を得ております。以下記載のとおりとなっております。また別々の学校がいいとおっしゃっていた方々もですね、3 番の記載のとおりという結果になっております。事務局の方からの説明は以上となります。

委員長：はい、説明ありがとうございました。アンケートの結果につきまして、委員の皆様、何か質問とかあればお願いします。挙手ボタンを押していただければ私から指名をしますので、そのあと発言いただければと思います。よろしくお願いします。結果についての質問とかは、特にはない感じですかね。一応公募のときと比べると、1,000 票を超える倍近くの回答ということで回答しやすかったのかなと思っていますけれども、そしたら結果についてはこれとして、これから校名を絞り込んでいく、選定していくことになると思うんですけども、事務局の皆さん、校名は 1 校にこの委員会では絞るという形でしょうか、それとも例えば 2、3 校に絞って、市議会とかで 1 校に決定いただくのか、その辺はどういうふうに検討していくというか、少しご発言いただければと思います。

事務局：すいません、こちらの委員会の中で 1 つに絞っていただいてという形でお願いしたいと思います。

委員長：わかりました。単純に、まず小学校と中学校の学校名を同じにするか、違うふうにするかというところを、まず話していければと思うんですが、

アンケートの結果を見ると、同じ名前がいいということで9割近く回答をいただいておりますので、名前に関しては同じ方がいいのかなと思っているんですが、この点につきまして委員の皆様いかがでしょうか。何かご意見あればお願いします。特にご意見はなさそうですので、小学校、中学校同じ名前で進めていくということで、まず了解いただけたのかなと思っています。それではですね、実際に名前をどうするかというところは、これから話していければと思うんですけども、一応アンケートの結果だけを見る限りでは、研究学園小学校、研究学園中学校の回答の割合が当然多くなっておりますので、素直に考えればそれがいいのかなと思っはいるんですけども、例えば過半数をいつているかとかですね、そういった視点でいうと、何か意見はあるのかなと思うんですけど、その辺いかがでしょうか。例えば学森のときとか、選ぶ際にどういうふうにあったのかとか、その辺の知見とかも踏まえて何かご意見いただければと思います。お願いします。

委員：学森のときですが、確か学園の森義務教育学校が52%、先日ラインの方でも皆さんにお伝えはしたんですが、一応数字の上では過半数集まったという経緯があって、その数字も踏まえて、準備委員会の方で学園の森義務教育学校にしようという経緯があったかと思います。事務局の方で何かその辺補足とか、あとはちょっと違うようなエピソードを、もし記録とかありましたら教えていただけますか。

委員長：事務局の方、何かあればお願いします。

事務局：ちょっと今確認をさせていただきますので、回答は少々お待ちいただいてもよろしいでしょうか。

委員長：お願いします。他皆さん何か意見とかありますでしょうか。お願いします。

副委員長：私は、その過半数であるかどうかは、別に気にする必要はないと思

います。また、校名案を見ると、研究学園小学校、中学校が1位で、つくば研究学園っていうのが3位に入っていますけれど、これって研究学園っていうのにつくばをつけるかつけないかという選択で、研究学園自体のある意味バリエーションなんで、それ合わせると、もうそれこそ過半数にこだわるのであったとしても53%ってありますので、圧倒的に1位と2位の差もありますし、そこまで気にしなくていいんじゃないかなと思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。他皆さん意見ありますでしょうか。

事務局：すいません、事務局です。

委員長：はい、お願いします。

事務局：学園の森の件につきまして、おっしゃるとおり学園の森義務教育学校は、割合としては一応過半数を超えたというところはあるんですけども、やはり最多得票といいますか、割合というよりは一番票を集めたというところも加味して、この学校名に決定したというところがございます。

委員長：はい、ありがとうございます。その辺も踏まえて他委員の皆様何か意見ありますでしょうか。お願いします。

委員：内訳を見させてもらっても5項目ありますね、在籍児童から一般まですべてにおいて、研究学園がトップということもあって、一般が若干一番票が割れてるのかなと思うんですけども、一般の人よりは、在籍とか新入学の方が、より重みがあるような意見というふうにも見えると思いますし、それはちょっとどうかわかんないですけど、とにかく私も研究学園のこの票の数からいって賛成です。

委員長：はい、ありがとうございました。学校関係者の皆様は、何か意見ございますでしょうか。お願いします。

委員：はい。やはり順位からいっても研究学園小中が1位だし、建ってるところも研究学園2丁目でしたよね。なので2位ね、学園南っていうのはあり

ますけど、学園南の地区ではなくて2丁目にあるので、やはり研究学園小中が一番いいのかなと思います。

委員長：はい、ありがとうございました。他の皆様、いかがでしょうか。お願いします。

副委員長：こんばんは。研究学園の方が、校章のイメージが多分つきやすいと思うんですけど、あと学園南ってなると校章をやっぱり考えると、ちょっとイメージがつきにくいのかなって思います。あとつくば研究学園小学校でつくばってついてると思うんですけど、高校とか受験のときに、つくば市立って必ずつけないといけないので、つくば市立つくば研究学園はちょっとおかしいのかなって思うと、やっぱりその上位の研究学園小学校か学園南ってなると思うんですけど、今後校章のことを考えていくと、研究学園という方が皆さんのイメージが作りやすいのかなって思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。まだご発言されてない方とかでご意見あれば、ぜひお願いできればと思いますけどもいかがでしょうか。お願いします。

委員：事務局の方にちょっと教えていただきたいんですが、以前ご意見とか質問があった話なんですけど、義務教育学校以外ですと、小中学校をまとめて何とか学園という名前がつくと思うんですが、今回研究学園小中になった場合は、その何とか学園という名称はつくのかつかないのか、もしつく場合はどういった名前になるのか、何かお話があったら教えてください。

委員長：事務局の皆さん、よろしいでしょうか。

事務局：学び推進課でございます。お世話になります。学園の名前ですけども、学園っていうのは連携する小中学校を一つの単位として学園と称しているんですが、その名前については、今、現在市内にたくさん学園がありますけども、当時の小学校、中学校の校長先生方が話し合って、決め方はそれぞれ学校でいろいろあったかなと思います。例えば、児童生徒のアン

ケートを取ったりとか、そういう形で学園名というのは決めてたいったかなと思います。ですので、学園名は何らかの名前をつけるしかないかなと思うんですけれども、ここで今すぐ学園を決めるということよりは、新しく学校が始まった上で、その学校間で話し合った上で決めていただければいいのかなというのは感じております。すいません、過去の例ということでご紹介させていただきました。以上でございます。

委員長：はい、ありがとうございました。お願いします。

副委員長：はい。その場合、学園名は必須っていう意味ですか。

事務局：はい。一応つくば市では、小中一貫教育ということで、連携する小中学を一つの単位として学園ということで使っていますので、一応今のところその学園名は必須と考えてはおります。

副委員長：それは何か違う名前同士が一緒にやろう、だから必要だっていう話だったと思うんですけど、同じ名前だったら、最初からそこを考えなくていいんじゃないかなと思うんですけど、そういう意味じゃないですか。

事務局：例えば、吾妻小学校、吾妻中学校は一小一中なんですけど、ここもやっぱり一応一つの単位ということで、吾妻学園という形で呼ばせていただいていますので、義務教育学校の場合には箱が一つなので、特に何とか学園という名称を使ってないんですが、一小一中当たりでも、ほかの例としては使わせていただいているということになります。

副委員長：わかりました。同じ学校の名前っていう事例を知らなかったただけなので、ありがとうございます。

委員長：他に何かありますでしょうか。お願いします。

委員：では一点だけ確認ですが、ここでは小中学校名を決めればいいのかあつて、学園名まで心配しなくていいという理解でよろしいでしょうか。

事務局：そのとおりです。

委員：ありがとうございます。

委員長：他の皆様は何かありますでしょうか。よろしいですかね。ひととおり皆様の意見を聞けたかなと思っておりますし、今までの意見をまとめると、研究学園小学校、研究学園中学校なのかなと思っておりますし、得票数を見ても一番多い結果になっておりますし、地名的、住所的に、近くの駅の最寄りの名前とかにも合致しておりますし、意見ありましたとおり、校章をこれから考えていく上でのやりやすさとかを踏まえて、研究学園小学校、中学校がいいかなというふうに思っておりますけども、皆様それで賛成という形でよろしいでしょうか。一応皆様から OK いただけたのかなと思いますので、この委員会としてはですね、研究学園小学校、研究学園中学校に絞り込みさせていただいて、最終的に教育委員会とか、市議会に諮っていただければと思いますので、これでいければと思います。事務局の方々、こちらの議題はそれでよろしいでしょうか。

事務局：はい、そのとおりです。ありがとうございます。そちらで大丈夫です。

委員長：では議題一つ目はこれで終わりたいと思います。では続きまして、議題の二つ目の校章案のデザイン募集及び制作について、事務局で資料を準備いただいているかと思しますので、ご説明お願いいたします。

事務局：事務局です。右上に資料 3 と書かれている校章案のデザイン募集及び制作についてというところをご覧くださいと思います。今、画面投影をさせていただいております。今後、校章を作っていくに当たって、どのように募集をするのか、制作を行うのか、そういったところをまとめさせていただいております。まず、実際の制作方法の欄のところを見ていただきたいんですけども、募集対象は学園の森のところに①から③というふうに記載があるんですけども、まず制作方法の①ですけども、こちらは実際に応募されたデザインの中から、委員会で選定を行って、数点に絞り込んだデザイン、応募されたデザインに、本当にわずかな補正を行うものでございます。制作者としては、応募者であったり、また今後募集を行

ったときに保護者の方から手が挙がったり、そういった方がいた場合は、一応デザイナー等というところの扱いになるんですけども、そういったところが該当になります。メリットとしましては、記載のとおりになるんですけども、微細な補正であるため、完成に要する時間が比較的短く済みます。またアンケート開始までの時間を短縮できると考えております。また、応募された方の微細な補正のみになりますので、応募者自身が選定されたことを認識できるといったところのメリットがございます。かたやデメリットの部分ですけれども、例えば児童生徒の方から募集したとして、例えばデザインに長けた保護者の方から複数の応募があった場合だと、なかなか児童生徒さんの案を生かすににくいといったような側面がございます。また一方で、微細な補正のみにとどめるとなると、デザイン性の高い、完成度の高い作品が複数応募されてくる必要があるというところがございます。また応募作品の補正や、大幅な修正等については、応募者の方からの理解を得にくいといったところもございます。②の応募されたデザインから、適宜パーツを切り取って組み合わせて作成というところがございますけれども、こちらでもメリットデメリットは記載のとおりでございますけれども、メリットとしては、応募した多くの方のデザイン、そこに込められた思いであったり、意図というものが部分的ではありますが、一つの校章の中に込められていくといったところがメリットとしてございます。一方でデメリットとしては、応募されたすべてのデザインの中から、どのパーツを使用するのかといったところの検討がありますので、完成までに時間を要するといった側面がございます。③としましては、この①と②の両方使った形で作成を行っていくといったところが考えられます。今回の募集対象のところを見ていただきたいと思いますけれども、つくば市在住者を含める場合と、つくば市在住者を含めない場合とで区分をさせていただいております。選択方法としては①から③の3パターンありますけれども

も、事務局としては、募集対象をつくば市在住者に広げた場合は、制作方法①をと考えております。というのはその理由なんですけれども、校章に限らず市のホームページを使って、公に広くデザインの公募募集を行う場合は、応募者の方が考えることとしては、自分が応募した作品が採用されるのか、採用されないのかといったところであって、また採用されたとして、デザインが補正されるところは本当にわずかなものであらうと思います。そのため制作方法②のように、デザインの一部を切り取られたりすとか、デザインを大幅に修正されて、元の原案をとどめないといったところは、なかなか応募者の理解を得ることが難しいというふうに考えています。なので、下の方の、一般のつくば市の市民の方に対象に広げた場合は、なかなかこの制作方法的②や③といったところを採用することは困難であると、事務局としては考えています。また製作方法的①、デザインの補正のみといったところを取る場合ですけれども、原案のデザインをほぼ踏襲する以上、応募者の方に完成度の高いデザイン性の高いものを出してもらう必要があります。それに伴って、ホームページで公開する募集要項、募集要領といったところもある程度厳格に定めて、例えばですね、カラーであるとか、単色であるとか、そういったところを指定させていただいたり、グラデーションを控えてくださいといったところで、やっぱり権利の関係のところも詳しく説明をする必要があると考えております。その結果、この一般の方を対象とした、その厳格なルールっていうところは、学園の森の児童生徒であったり保護者であったり、そういったところにも適用することになりまして、デメリットの方にも書かせていただいたんですけれども、例えば一般の方で本当にデザイン会社に勤めている方とか、デザイン性に長けた方が、一般応募としてたくさん集まった場合は、おのずとそちらの方が選択される可能性があります。児童生徒であったり、保護者が作成したデザインといったものが、なかなかこの校章に生かされにくい

という側面があるという考えております。また制作方法①のデメリットとしては、デザイン性の高いものが本当に出てこなかった場合、その後の対応をどうするのかといったところの懸念が想定されます。一方で、募集対象のところを学園の森義務教育学校の児童生徒、保護者と、新入学児童及び保護者のところに絞った場合なんですけれども、記載のとおり選択肢が広がるというふうに考えております。制作方法の①から③が、いずれも選択できると思っております。例えば仮にですね、制作方法の②、こちらを取る場合、一部の保護者さんであったり児童生徒の方から、デザインの切り取り等について抵抗感を感じるというようなところが生まれた場合には、デザインの募集という形ではなくて、校章案のアイデアを募集しますという形で、応募いただいた方のアイデアをもとにデザインを作り上げますというような形で、募集をかける方法もあるのではないかなと考えております。制作方法②や③を取ることによって、おそらく応募としては児童生徒や保護者の方が一番多いと思うんですけれども、こういった児童生徒や保護者が作成したアイデアであったり、その校章をつくったことに込められた思いであったり、そういったものを校章デザインの方に反映させやすいと事務局は考えております。この校章案の例えばそのデザインではなくて、アイデアを募集という形を一般のつくば市民の方に対しても行ったらどうかということも考えたんですけれども、アイデアの募集であったとしても、あくまで応募したものから作品の一部を切り取られたり、また大幅に修正されることについては、やはり応募者からなかなか理解は得がたいのかなと感じておりますので、またアイデア募集というところでは、なかなか多くの応募を集めることも難しいのかなと考えております。ここまで、この資料3を含めて事務局の考えをご説明させていただきました。こちら、あくまでも事務局としての考えですので、委員の皆さんにぜひご協議いただきたいと思っております。今までの事務局からの説明と、資料3の内容

を踏まえまして、まずはデザイン募集を行うに当たって、つくば市在住者を対象に入れるのか否かというところを協議していただいて、決めていただきたいと思っております。その後に、具体的な制作方法であったり、募集の仕方のところ、ご議論いただきたいと思っております。すいません、一方的に事務局からの説明となりました。以上になります。

委員長：いろいろ検討いただきまして、かつ丁寧な説明ありがとうございます。

皆様に質問する前に私の方から一点だけ、学森の校章を決めるときに、この4つの案の中のどれを取ったのかだけ、先に説明をしていただいてよいでしょうか。

事務局：学園の森の場合ですね、まずつくば市民への募集は行っておりません。

在籍の児童生徒、保護者を対象に行っておりまして、この中でいいものと制作方法の②、応募されたものの中から適宜パーツを組み合わせながら校章を作るといった形になります。

委員長：ありがとうございました。今までの説明を受けて、何か質問とか意見があれば、委員の皆様お願いいたします。お願いします。

委員：すいません、そもそもの話かもしれないんですけど、校章案が決まって、それがどういう使われ方をするのかっていうのが、これまでに、工事中の校門のところに貼り付けるとか、そういったことは伺ってたんですけど、それ以外にどういう使われ方をするのかっていうのを教えていただけたらと思います。校名ってのはすごく公共性があるものなんで、何かつくば市の方も巻き込んでっていうことで、私もそれに言わせてもらったんですけども、その使われ方によっては、つくば市を外してもいいのかなとか思ったり、そこをまず教えていただければと思いました。

委員長：事務局の皆様、回答をお願いしてよろしいですか。

事務局：はい。教育施設課です。まず施設の方から、こういったところに使われるのかについて、ざっくりお話させていただければと思います。以前の

開校準備委員会でもお話させていただいたところではあるんですけども、まず、校門であつたり、あとは建物の袖壁であつたり、あとは体育館の緞帳、それから学園の森にもあるんですけども、窓ガラスのところに衝突防止フィルムとして GM っていう、学園の森であればそういうマークが貼られています。そういった形で施設のにもいたるところに、そういう校章は使われているかなと思っています。

事務局：続けて、学び推進課でございます。校章なんですが、いわゆる学校のシンボルになるかなと思います。今まで既存の学校であれば、校章を使う場面となると、例えば学校でつくるいろいろな資料、学校要覧であるとかそういった部分の表紙に使ったりなんてことはよくありました。それから、例えば中学校なんかでよく学校ののぼりといって、学校名が入ったのぼりなんかをよく作る学校さんも多いんですけども、そういったときにも校章なんかを入れて、いわゆるその学校のマークということで、使っているパターンが多かったんじゃないかなと思います。以上でございます。

委員長：説明ありがとうございました。あと実際に、学森の現在の学校の中でも、どういうふうに使っているかとか、参考までにご説明いただければと思いますけども、学校の方でよかったらどなたか簡単に補足いただけないでしょうか。

委員：よろしいですか。あとやっぱり中学生の場合の制服ですかね。胸にエンブレムとして、校章等は使われているのかなと思います。あとジャージはどうだったかな。ジャージなんかは入ってるかどうかは、今パツとは思いつけないんですが、一般的にはそういうところが一番目につくところかなと思っています。以上です。

委員長：ありがとうございました。その使い方は、今ご説明いただいたとおりにかと思いますが、それを踏まえて事務局から説明があったデザイン募集について、ご意見とかあればぜひお願いします。

事務局：事務局から一点、校章の資料について補足いいでしょうか。見えていますかね、これは学園の森の校章になりますけれども、こちら先ほど制服に使うというお話もありましたし、制服のボタンですとか、あと体操服の胸のところに使用したりですとか、そういったところの使用もございます。以上補足になりました。

委員長：ありがとうございました。それを踏まえた意見を皆様、お願いします。

副委員長：先生に質問なんですけれど、校章って定めること自体に何か教育的な目的であるとか、効果とかっていうものがあるものなんでしょうか。なぜそれを聞きたいかという、ただマークとして、標識として必要なのであれば、とにかくデザイン性がよければいいって話になりますし、教育的な何か効果や目的があるのであれば、みんなの思いを受けとめるってことに意味が出てくると思うので、お聞きしたいと思ってます。

委員長：はい。これ、よろしいでしょうか。

委員：やはり校章というのは、教育的意義は非常に大きいと思います。その校章の中に含まれた、その作った人たちの思いがそこにあるわけですし、地域や学校を愛するという気持ちも入ってるし、その愛校心に繋がるというか、うまく言えなくて申し訳ないんですけど、非常に意味は深いものがあると私は思います。以上です。

委員長：ありがとうございました。やはりこういうものがあつた方がですね、何か皆さん目標を一つに向かってできるとか、学校のシンボルとかっていうことで、どこの学校とかっていうのを出してアピールするとか、見てわかってもらえるかなと思うので、大事なかなと思いますので、その辺を踏まえてこれから議論できればなと思いますので、事務局の資料についてご意見いただければと思います。いかがでしょうか。お願いします。

委員：事務局の方に教えていただきたいんですが、こちらの資料3の学園の森義務教育学校の方で募集をかけた場合で、デザイナー等という制作者の方

のところで分けがあるんですが、こちらについてはどのような依頼の仕方、もしくはどの辺、例えばつくば市在住の方もしくは学園の森関係者のデザイナーなのか、その辺をどのようにお考えなっているか教えてください。

委員長：事務局の方ご回答をお願いしてよろしいですか。

事務局：事務局です。例えば今後、保護者ですとかそういうところにアンケートであるとか、その募集を行ったときに、例えば一つチェックマークを作って、保護者の方で作成に協力いただける方といった項目をつけて、そこでチェックを入れていただいた方が出てきた場合は、その方をまず第一の候補として進めさせていただきたいと思います。ただ、もしそういった方が一人も出てこない場合は、教育局で検討させていただきます。一応教育局でご用意する方っていうのは、あくまでも保険としてとらえていただいて、例えば保護者の中で、こういったデザイン性が長けている方がいらっしゃいましたら、そういった方が手を挙げていただくっていうところを期待したいと思います。

委員長：お願いします。

委員：今、市の方で準備を、保険として手配されるデザイナーの方もいらっしゃるという話ですけど、お金とか発生せずに、市の方でそういう依頼できる方がいらっしゃるってことなんですか。もちろん生徒の保護者の方がいればそちらを優先ではあるんですけども、そのお金的なところなしでも市が依頼できる方っていうのがいらっしゃるんですか。

委員長：ありがとうございます。遅れてこられたので、さっきの議論で学校名ですけども、回答が一番多かった研究学園小学校、研究学園中学校という形で、この委員会としては選定させていただくような形になりましたので、一応報告ということでよろしいでしょうか。今の回答の部分、事務局の方よろしいでしょうか。

事務局：事務局です。例えばですけども、美術の先生ですとか、そういったところが挙げられると思います。

委員：わかりました。ありがとうございます。

委員長：他に何か意見ありますでしょうか。はい、お願いします。

委員：資料3のデメリットとかのところで、その応募作品の補正修正等について、応募者の理解を得にくいついていうところを結構お話されたかなという印象でいたんですけど、そもそもこういうのに応募すること自体がボランティアな話だし、あと著作権は放棄するような形で募集されるんですよね。だから、ここにあんまり気をつかうものではないと私は思ったんですけど、やはり気をつかうものなんですか。

委員長：事務局の方々がでしょうか。募集するときの前ぶれは当然書くと思うんですけども、それでもですね、やはりクレームが来た経験が多いとか、トラブルに発展したとか、そういったところからデメリットに入れてるのかなとも考えられるんですけども、その辺何かあればコメントいただければと思います。

事務局：事務局です。他の自治体の校章案のデザイン募集というところを見ると、大体のところは採用された方に報奨金ですとか、そういった報奨を与えることが多いです。今回研究学園については、そういったところの予算組みがないので、基本的に本当にボランティアという形でご協力をいただくことになります。

委員長：ありがとうございました。一つのやり方として事前にしっかり説明した上で、応募された方の中から、例えばこの委員会で絞って、その方々に大きく変えることを了解いただければ、別に大きく変えてもいいというようなことがOKであれば、例えばつくば市在住者も含めて、幅広く応募するのもやり方としてあるのかなと思ったんですけども、その辺事務局の方々はいかがでしょうか。

事務局：もし一般市民の方を対象として募集をして、その応募で上がってきたものを、例えば制作方法②のような形、その応募者デザインのパーツを取りますよといったところを、あらかじめ募集要項とか、市のホームページの募集要項に記載する形というところでしょうかね。

委員長：そうですね、そういう方法もあるんじゃないかなというようなところを今意見をしたつもりですが、それは対応は難しいですか。

事務局：方向として可能だと思いますが、本当に募集をかけるとなった場合は、本当にそのデザインの一部の補正のみにとどめますかというところと、本当にデザインの一部パーツを切り取ったりですとか、大幅な修正を変えますよっていったところをご案内するか、その２パターンといいますか、そこを丁寧にご案内する必要があるかなと思ひまして、そこをどういった形をとるかというところを皆さんにご協議いただいて決めていただきたいと思います。

委員長：方法論としては、あると考へた上で議論していいということによろしいですかね。では、その辺を踏まえて委員の皆様、少しご意見、コメントいただければと思いますけどもいかがでしょうか。お願いします。

副委員長：校章案のデザイン募集は、私もつくば市内在住の方も含めた募集をしていいかと思ひます。なぜなら、今回も票率がとても低いので、今回またどれだけの方がデザイン案を応募してくださるのかなっていうところの懸念がございますので、つくば市在住の方をお願いしたいです。あとはお伺ひしたいんですが、学森のときに、前回表をいただきましたが、どれくらいのデザインの票率というか、結構集まったんでしょうかね。それをお伺ひしたいです。

委員長：学森のときの事例を、一番最初の委員会の際に説明いただいたのかもしれませんが、改めてもう少しやり方とか、細かい部分含めて事務局から補足説明いただいてよろしいでしょうか。

事務局：事務局です。学園の森の場合のときの児童生徒、保護者を対象としたときの応募件数といいますか、票数といいますか、につきましては、大体ですね 50～60 件程度集まっております。

委員長：ありがとうございます。

副委員長：対象者はどれくらいいたんですか。

事務局：対象者のところは、春日学園に通われている全児童生徒と保護者です。

副委員長：人数にするとどれくらいですか。

委員長：あと実際問題は、春日でアンケートして学森を選ぶときに、実際に公募で、とりあえず通ってる子どもとか保護者に対してやってもらったりして、実際にデザインのレベルっていうんですかね、どこまでのものが上がってきて、ちょっとした補正だけで本当にそのまま使えるのかどうかとか、あとは実際に最初からレベルが高いのでそこまで必要じゃないとか、その辺の知見、経験はいかがですか。そこで結局、やっぱり大幅にアイデアレベルで手を入れないと使い物にならないというようなレベルであれば、はなからアイデアベースのデザインを募集するっていうことにしないと、やっぱり非効率になってくると思うので、もう一度その辺の状況をちょっと事務局からご説明いただきたいと思いますけどいかがでしょうか。

事務局：事務局です。学園の森の事例なんですけれども、やはり児童生徒さんからもそれ相応のレベルの作品も出てきましたし、その上でデザイン会社に勤めてらっしゃる保護者の方からも応募がありまして、最終的にはそのデザイン会社に勤める方、保護者の方がボランティアという形で、校章案を補正ですとか作り上げていただいたという事例がございます。現在並行してですね、来年4月に香取台地区に新しい小学校ができるんですけれども、こちら一足先に島名小学校の児童生徒、保護者を対象に募集を行わせていただきました。その結果ですね、先ほど申し上げたんですけれども、保護者の中でデザインに協力していただける方いませんかというチェックボ

ックスを作ってアンケートを行ったところ、2名ほど協力してくださいますという方が出てきまして、これからそこはどうやって作っていくか決めていくんですけれども、一応そういった事例もございます。そのご紹介になります。児童からの応募もたくさんあったんですけども、やはり保護者の方からもかなり完成度の高いデザインの応募もございましたので、その件も含めて伝えさせていただきます。最後補足になりますけども、香取台の方はつくば市在住者には広げずですね、あくまでも現在通われている児童とその保護者と、今年4月に入ってくる児童とその保護者を対象としてやっております。

委員長：ありがとうございました。香取台の方は、応募されるときに事前の説明事項のところはアイデアだけでお願いをしたのか、基本的にはそのまま採用するに近いとか、その辺はどういうふうにされてるか補足いただければと思います。

事務局：事務局です。香取台につきましては、制作方法でいう①と②を両方合わせたような形で、上がってきたものを一部補正するだけにとどめるか、もしくは出てきたもののパーツを組み合わせて作るといったところのご案内をさせていただいております。

委員長：ありがとうございます。その中から、例えば5点とかを委員会で絞り込んで、場合に応じては了解を得られれば大きく変えるとかっていう形で進めていくようなイメージだと思いますけども、やっぱりその辺が一番バランスが取れていいのかなと、今までのお話を聞いてて、私としては思っています。大きな進め方はそれがいいのかなと思うんですけども、あとは学森の関係者だけにするのか、市まで広げるかっていうところが、香取台と我々のこの委員会でちょっと違うことになると思いますけども、その辺いかがでしょうかね。先ほど市民にやってっていうご意見もありましたが、他の皆さんはどうですか。やっぱり学校だけではなく広げた方がいいのか、

学校だけでクローズしてもいいのか、その辺ちょっとご意見あればいただきたいと思いますけどもいかがでしょうか。お願いします。

委員：先ほどの学森のケースについて、個人的に参加した者の印象として、やはり子どもたちの作品もとても魅力的なものも多くありました。ただその中で、結果的にはデザイナーの方だったんですが、大人の方が描かれたきっちり形になった校章というのは、やはり目を引くものがありまして、やっぱりデザイナーの方のお力が非常に大きいなという印象を学森のときには持っていました。先ほど香取台の話で意外だったのが、おそらく規模的には学森より、香取台の方が人数は少ないと思うんですが、その中で、そのデザインの専門のお強そうな方が2名ほど現れたということを考えると、学森の規模に考えればもう少しでもいいのかなという印象を今持ちました。もしそういう過程で話が進むのであれば、個人的にはつくば市在住を最初含めた方が、デザインの専門家を含めていろんな方が参加しやすいかなと思ったんですが、学森の規模を考えると、その中に潜在的なデザインの専門家の方がいらっしゃるという思いを今より強く持ちましたので、今でしたら学森関係者に絞ってもいいかなと個人的に思った次第です。以上です。

委員長：お願いします。

副委員長：私も今、香取台の意見を聞きまして、一緒に、そういうデザイナーでご協力いただける方っていうチェック欄を作っていただけるなら、学森の方が数倍以上人数はいますので、ちょっと期待ができるのかなと思います。なので、在住にしなくてもいいかなと思いました。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。他の皆様、意見ありますでしょうか。お願いします。

副委員長：私もデザイナーさんの可能性があるんだったら、さっき先生がおっしゃった作った人の思いっていうことが大切だっていうことを考えると、

地域の自分たちの顔の見える範囲の方の思いの方が受けとめやすいと思います。なので、市全域に広げなくてもいいかなと思います。作成方法については、パーツを切り取ってっていうの私すごくいいなと思いました。理由は、低学年の子にもチャンスがあると思うんですね。その方がいろいろな人の気持ちを受けとめることができるので、私はそのパーツを切り取ってという案に賛成です。先ほど、多分著作権のお話が出たと思うんですけど、著作権を放棄してくださいっていう中には、当然著作人格権を放棄してくれ、要は改変しないでくれというのを放棄させるように最初から言っておけば解決できる問題じゃないかなと思いました。以上です。

委員長：ありがとうございます。お願いします。

委員：私もですね、皆さんのご意見をお聞きしまして、やっぱりこの学森関係者っていうのがやはり一生懸命さが違うというか、そういうのがまずあると思うんですよね。あと今までの例を聞いても、学森のときもその関係者のみ、香取台もそうだといいこともありますし、あとその関係者の方がいろいろこう融通がきいてやりやすいというようなお話もあったので、そちらの方がいいのではないかと思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。お願いします。

委員：校名案のアンケートでも、思ったよりいろんな校名が出てきたりとかもしたので、校章案もいろんな案ができてきたときに、部分的とかにパーツを切り取って、組み合わせて作成とかしても面白いのかなと思ったので、その①と②の両方の制作方法ができやすいっていうので、学森のみっていうのもいいのかなと思いました。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。他の方向かありますでしょうか。

事務局：事務局ですよろしいですか。

委員長：はい、お願いします。

事務局：今回、香取台の例を説明させていただきましたが、前回学森をやった

ときには、そういった保護者の方からのデザインは、ボランティアさんの募集という枠をつけないで展開しました。その上でも、保護者の方がデザインをやりますけどもどうですかという文章が、デザイン募集のところの行にあったものですから、その方にお願いしたっていう経緯があります。その中で、やはり見ててもお子さんたちのデザインが結構いろいろいっぱいあった形ですので、そこから部品取りをしたっていうのが前回ではあります。今回、香取台につきましては、保護者の方にそういった部分もあったので枠をつけて募集をかけたのと、今回香取台は、この資料3でいきますと、③の部分、両方をやるっていう形になってます。それは、②だけの場合に、場合によってはお子さんが書いてきたデザインがものすごくいいものがあるかもしれないので、それはそれとして選んで、ただその絵の部品もよければ、そこからとったものを作ったっていう方法にすれば、いろんなデザインを含めて多様性ができるのかなっていうことだったので、①②とはせずに、③っていう柔軟性を持たせたのが香取台です。ただし、自分たちの学校なので、自分たちでデザインを書いた方がいいものが出るかなっていうことで、ホームページ等での募集はしていないというのが香取台で、新1年生にしても、今の1年生、低学年にしても、いろんなデザインを上げてきてますので、デザインは出てくるのではないかなと。先ほど言ったとおり、このデザイナー等っていうのは、保護者の方が出してくればその方にお願いはしたいんですけど、教育局の方では、美術の先生とかにお願いできればと思いますので、部品取りっていうよりも、生徒と児童だけから募集をしたとしても、少ないデザインだったとしても、こちらをお願いする先生方はその部品で何点か作っていただくという考えでいますので、その上で先ほど委員からありましたとおり、大人の方が書いたデザインは大分目を引くっていう部分には、美術の先生とかであればその人に書いてもらいますから、目を引くデザインにはなるかなとは思いますが、ただ、

こちらでお話したとおり、こちらが願う方はあくまでも最終的なものとして居なかった時のことを考えておりますので、できる限りは皆さんの学校ですので、お子さんか保護者さんの中でデザインをしてくれる方が出てくれば一番ありがたいなと、その方々に自分たちの通う学校っていうものを改めてかみしめてもらえるために、デザインっていうのをやっていただけると一番ありがたいなとは思っています。

委員長：はい。補足説明ありがとうございます。今の意見を聞いて、まだ発言されてない方とかで何かあれば思いますけどもいかがでしょうか。大丈夫ですかね、お願いします。

委員：たびたびの発言ですいません。一点だけ事務局に教えていただきたいんですが、もし③の両方作成になった場合、資料1にあるスケジュール的に問題ないかどうかだけ、ざっくりでいいんで教えていただければ幸いです。以上です。

委員長：事務局の皆さん、回答お願いしてよろしいですか。

事務局：事務局です。一応そこを想定して、このスケジュールを作らせていただいているので、このスケジュールに記載のとおり、翌週の22日火曜日から実際に募集を開始というところを想定して準備をさせていただきたいと思います。

委員長：ありがとうございます。他の皆様いかがでしょうか。そうですね、これでおおむね意見は出てきたのかなと感じておりまして、まずこの募集の対象ですけども、今までの皆様の意見と、やはり関係職のいわゆる関わり度合いが強い、あるいは学校関係者の方がいいのかなという意見が多数になってきたと思いますので、基本的にはやはり学園の森義務教育学校、今就学されている児童とその保護者、並びに新入生も対象にしてくださいと書いておりますので、対象者はその方々でいいのかなと思っておりますけども、こちらについては皆様それでよろしかったですかね。皆様、これは

OK という形で意見いただけたかなと思います。実際の制作の方法に関しては、香取台の事例とかも踏まえると③なんですかね、事務局の意見が③の両方でやるという形が、一番バランス取れていいのかなと思っております。やはり、その時点でどの案にするのかっていうのを決めるのはちょっと早いので、出てきた案とかを見ながら、子どもが書いたものをなるべくそのまま採用する方がいいのであればそれがいいですし、やっぱりパーツを切り取って大人がデザインした方がいい場合っていうのも出てくるとは思いますけども、これやっぱり見ながら決めていくのが一番いいのかなと思いますので、③の方法で公募はしていただいて、次もしくは、その次の委員会とかで少しどれにするのかを議論して、絞り込んでアンケートとかっていうのがいいのかなと思っておりますけども、その辺の制作の方法はそんな形でよろしかったですかね。お願いします。

委員：たびたびすいません。学校の先生方に教えていただきたいんですが、校章案募集の際に、プリント等配布して紙媒体で募集することは可能でしょうか。来週から学校が再開という部分も踏まえて、そこを教えていただければ幸いです。

委員：来週から小学生も登校ですので、配布は可能です。以上です。

委員長：ありがとうございます。事務局の方々、募集を 22 日からかけるというスケジュールになっておりますけども、募集のかけ方をどうするかを少しご説明いただければと思うんですけども、校名のときと似たような形かと思うんですが、その辺補足いただいてよろしいでしょうか。

事務局：事務局です。来週から学校が再開されるところというところもありますし、やはりお子さんがデザインをかくとなると、なかなかパソコンであったりスマートフォンであったり、そういったところを活用するのは難しいと思いますので、基本的には紙を基本としてどうかなと考えております。

委員長：ありがとうございます。基本的には、子どもも保護者も学校を介して

紙を配布して、紙を回収するような形で全部クローズするのか、もしくは紙に書いたものを写真とかに撮って、この前の校名のアンケートのようなサイトにアップして登録するのかとか、その辺の手法とかどういうふうにお考えなのかとか、あとはお願いするときの説明のお手紙文書、この辺のところの前提条件の書き方ですね、その辺をどういうふうに作るのかっていうのがポイントになってくると思うので、事務局の方で少しその辺を、香取台とかの事例を参考にしながら作っていただいて、できればその配布前に委員の皆様にも一回見てもらってですね、フィードバックするような形でお願いできるといいのかなと思っているんですけども、その辺ちょっと事務局の考えを教えていただければと思います。

事務局：事務局です。案内通知につきましては、香取台もありますので、それを踏まえた形で一旦お作りしたものを皆さんにお送りしますので、確認していただければと思います。方法については、香取台でもあったんですが、やっぱりお子さんのアイデアをしっかりと書いていただきたいので、紙で出していただく。ただ、保護者さんとかお子さん、場合によってはその紙にかくのがちょっと難しいとか、パソコンで書いたものをくっつけたとかいろいろありますので、それは紙につけていただくとか、パソコンで書いたものを印刷して応募用紙にくっつけてもらって、一緒に出してもらうっていうこともいいかなと思います。ただ、電子申請というか写真に撮ってっていうことになる、デザイン性の問題としてそれが本人が書いたものでも、はっきりとしたものが伝わるかどうかということがちょっと心配されますので、できれば紙に書いたものを直接出していただいた方が、色合いとかもしっかり見えて形とかも見えると。取り方によっては写真だと映り方がわからなかったっていうことになる、本人が書いた意図が伝わらないことも懸念されますので、紙としてお出しいただくのがいいかなと考えてます。

委員長：ありがとうございました。やり方は、それが一番私もいいのかなと思うんですけども、そのときにちょっと期限が短いのが少し気にはなっております、やっぱり紙で受け渡す、やっぱりその時間が少しかかってしまっていたところですか、新入生の方々とかに対しても今回募集するというと、多分郵送配布郵送回収になるんですかね。そうすると1週間という期限で締め切りにすると、かなり時間的には短くなってしまうのかなという部分もあるので、その辺はどのようにお考えなのでしょうか。

事務局：事務局です。今並行して動いている香取台の例をご紹介しますいただきますけれども、香取台の場合はですね、公募の期間は2月の10日から15日と、一応土日を挟む形で実施をしています。今回研究学園については、一応22日から28日と香取台より若干多めで、あと祝日の23日を挟んで、あと土日も挟むといったところで、香取台の事例を見ると十分な期間かなというふうには考えております。

委員長：すいません、香取台ってあれですよ。学校が、今休校中だと思うんですけども、どういうふうにやられたんですか。紙でっていう形ですと。

事務局：完全に郵送です。郵送させていただいて、さらに返信用封筒を入れさせていただいて、返信をいただいたという形になります。あと実施のご案内の方は、学校さんの方から緊急メール等を通じて募集を開始しますというふうなところのアナウンスもさせていただいております。

委員長：ちなみにそれで結構集まってる形でしょうか。参考までに教えていただければと思います。

事務局：とても集まっております。

委員長：はい、そうなんです。その実績があるなら、このやり方でも十分かと思いますけども、委員の皆様何か質問とかあればお願いします。お願いします。

副委員長：私は、この1週間で期間的に大丈夫だと思います。大丈夫というか、

あまり長いとまだまだ先があるって思いがちなので、1週間ありますし祝日もあるので、皆さんに周知していただけたらと思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。他皆様いかがでしょう。おそらく期間というよりは、周知の仕方を丁寧にするかっていったところでしっかりお願いすれば、多分早く回答してくださると思うので、そうすることでこの1週間でも十分かなっていうのを意見聞いて少し私も思いましたので、お手数ですけども学校の方で、例えばクラスの先生から紙を配布してもらうときに少しコメントを言っていただくとかですね、この辺をちょっと協力していただきたいと思いますので、校長先生もぜひその辺をお願いできればと思います。一応この辺まとめると、進め方は資料3の③でやっていくという形で、基本的には香取台のやり方を踏襲して進めていくっていう形で概ねよろしいかなと思いますけども、皆様はそれで大丈夫でしょうか。基本的には、事務局からご提案いただいた今の進め方で進めていただくということで、実際の公募の資料とかは事前にお送りいただいて確認させていただくということで進めていければなと思っております。事務局の皆さん、このような形でよろしいでしょうか。

事務局：事務局です。ありがとうございます。それで大丈夫です。

委員長：ありがとうございました。では、議題の2はこれで終了させていただければと思います。最後の議題は、制服・体操服について、4月から具体的なことは検討するということでしたけども、今考えている部分について、資料の方ご説明をお願いします。

事務局：事務局です。資料の4をご覧ください。制服・体操服の選定について、私からご説明いたします。制服・体操服の選定については、検討開始の時期は4月を予定していますが、事前にですね、選定方法の概要を説明いたします。まず、制服・体操服について、委員の皆様イメージを持っていたくために、市内の中学校、義務教育学校の後期課程の制服・体操服の

状況について表にしましたので、画面の参考資料をご覧ください。学園の森義務教育学校では、ブレザーの制服を着用しているため、この表についてはブレザーを着用している学校について載せています。では制服について、項目の左側から見ていきますと、まずブレザーについては、すべての学校で指定のものを着用しています。続いてスラックス、スカートについては、指定のものがある学校がほとんどなんですけれども、竹園東中学校のように指定のものがないところですか、春日学園のように色のみが指定されているところもあります。続いて、シャツについては指定がある学校も一部ありますが、白色のシャツであれば指定のない学校が多いです。夏は指定なしの白色のポロシャツの着用を認めている学校もあります。あとは春日学園のように、正装時は指定のシャツを着用しますが、日常生活では指定のない白色のシャツを着用している学校もあります。続きまして小物類では、ネクタイのみの学校、またはネクタイとリボンを着用している学校があります。こちらですね、すべての学校におきまして、スラックス、スカート、小物類のネクタイ・リボンにつきましては、男女の性別に関係なく兼用となっています。次に体操服についてですが、表に載せていない中学校も含めまして、いずれの中学校、義務教育学校の後期課程でも、指定の長袖・半袖の体操服がありまして、背中や胸にロゴや名札が入っていたりと各学校様々なデザインとなっています。小学校についての体操服ですが、小学校は指定ありのところが多いですが、例えば竹園東小学校のように全く指定がなく、自由なものを使っているところだったり、手代木南小学校のように半袖は指定がありますが、長袖は指定がないところもございます。ほかには、吾妻小学校のように基準となる体操服はありますが、それ以外のものを着用可能という学校もございます。各学校の状況については以上となります。では続きまして、資料4の2番、制服・体操服の選定方法として、事務局側からは3案を提案させていただきたいと思います。

まず、開校前に決定する案としまして、1番のパーツチェンジ、2番のフルモデルチェンジ、そして開校後に決定する案としてを3番とさせていただきます。それぞれの案については、表にまとめましたのでご覧ください。

1番から順に見ていきますと、まずパーツチェンジですが、こちらは現在の制服・体操服からデザイン等を一部変更するモデルチェンジとなります。変更するパーツの例としては、制服では、ネクタイ、リボン、ワッペン等の小物類ですとか、あとはスカートの柄の色などになります。体操服では、バックプリントのロゴ等が考えられるかと思います。パーツチェンジのメリットとしましては、制服変更の準備、検討の手間が少ないということや、買い替えの際、必要最小限の費用で済むことが挙げられます。逆に、考慮すべき点としましては、パーツの変更数によっては、現在の学園の森の制服・体操服と似たデザインとなる可能性があるということが挙げられます。

次に、フルモデルチェンジについて、こちらは現在の制服・体操服を全く違うものに一新するモデルチェンジとなります。メリットとしましては、デザインが一新されるので、学校の独自性のあるデザインとなることが挙げられます。考慮すべき点としましては、買い替えの際に経済的な負担がかかるといったことや、コンペの実施等ですね、9月の最終決定までに協議すべき事項が多いことが挙げられます。

次に、3番の開校後に決定する案についてですが、こちらは新設校が開校してからデザイン等を決めていただく案となっております。メリットとしましては、時間をかけて選定ができるということが挙げられますが、考慮すべき点としましては、制服が決定するまでの新7年生の扱い方について検討が必要なことや、制服が決定するまでは、式典での統一感がないといったことが挙げられるかと思います。選定方法の案としましては以上になりますが、パーツチェンジをした場合の衣料品メーカーさんで作っていただいた制服・体操服の価格についての参考資料がございますので、画面の方をご覧ください。まず、

制服についてですが、左側の現行モデルというところで1型2型とありますが、フルセットで購入した場合、価格はそれぞれ6万円程度になっております。対して右側の赤い部分ですね、パーツチェンジのところでは、仮にネクタイ、リボン、ワッペン、ボタンを変更した場合は、価格はそれぞれ6千円程度となっております。次に、体操服に移ります。こちら左側の現行モデルのところで、長袖半袖のフルセットで購入した場合は、1万4千円程度となっております。対して、右側の提案パターンAの赤い部分のところでは、背中バックプリントのロゴを変更した場合についてとなりますが、こちら学園の森のロゴから仮に研究学園といったロゴに変更したとしても、価格が同じ金額になっております。続きまして、提案パターンBのご紹介します。こちらでは、バックプリントのロゴと、あと生地の色を現行モデルから変更した場合となりますが、こちらについても価格は同じになっております。制服についても、現行モデルと大きく型を変えず、例えばスカートのチェックの柄の色のみを変更する場合などは、現行モデルと同程度の金額で変更可能ということで衣料メーカーさんに確認しております。参考資料としては以上になります。これからこういった案で進めていくのかなど、具体的なことについては今後皆様の中で検討していただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。事務局からは、制服・体操服について以上になります。

委員長：いろいろ準備してくださいます、本当にありがとうございます。今日は多分、意見をさせていただくだけでよろしいのかなと思っておりますけども、そういった認識でよろしいですか。

事務局：お願いします。

委員長：ちょっと皆さんの意見聞く前に、これも学森のときにどの案を使ったのかとか、どういうふうに決めていったのか、また先に事前補足いただいでよろしいでしょうか。

事務局：春日から学園の森のときについては、2番のフルモデルチェンジを採用し、進めていっています。

委員長：ありがとうございます。学森のときの何かやり方とか、少し覚えてることあれば補足いただいてよろしいですか。

委員：事務局の方でわかるかたいたら教えて欲しいんですが、今の学森では確かにフルモデルチェンジを採用させてもらったんですが、そこに至る経緯として、ちょっと私も失念している部分が多いんですが、何か児童生徒に対してアンケートとかやったかどうか、もし記憶ございましたら教えてください。

委員長：事務局の方々、お願いします。

事務局：事務局です。学森のときについては、準備委員会の中でフルモデルチェンジってということが確か上がったのかなと記憶してます。その次として、じゃあどういう選び方をするかっていうことは、コンペがいいのかなっていう形でメーカーを制服については5社、体操服については3社程度を呼びまして、そこでコンペをしたと。まずメーカーを決めるコンペをして、その次に決まったメーカーが、学森にあったデザインを3つ程度作っていただいて、それをまた児童生徒にアンケートを取ったと。そのときは多分、マネキンとかを持ってきたいただいて、校内において皆さんに見てもらいながら取ったっていう記憶をしております。ただ今回は、なぜこの部分的なものをつけたかといいますと、やはり経費がかかる部分があるので、入ってすぐまた買い換えなきゃいけないのかとか、まだ使える部分があるのでっていうご意見があったものですから、メーカーと一応相談させていただいて、なるだけ支出がかからない形でも学森と大分見栄えが違うものがないかっていうことも含めて、部分的なというものを提案というか出しております。ただし、これは今説明させてもらったとおり、1、2、3という3パターンについて我々考えているのは、一旦皆さんにアン

ケートを取ってもらうことがいいのかなと。それは、フルモデルチェンジしたいのかパーツチェンジなのか、それとも3番ってというような形なのかってということが考えられるかなということで今回お出ししただけなので、皆さんで話し合っていていただいて3番はいらないのかなと、1番と2番だけでアンケートをやりましょうかってなれば、それはそれだと思いますし、パーツチェンジって考えたときに、部分的にはパーツチェンジって書いただけでは、アンケートを行ったときにお子さんと保護者さんがイメージが全くつかないと思いましたので、写真と金額をつけたものを出せば、ある程度イメージがついた上で、パーツチェンジなのかフルモデルチェンジを選ぶことができるかなと考えて、今のところ準備をしているってところです。それが全部決定ではありませんので、皆さんに考えていただいて、1、2、3という選択肢をつけてアンケートを今後やろうとするのか、いや3番までも選択肢をつけなくてどれかを削ったパターンでアンケートをやるかってということが考えられるかなってということで、今回あくまで次回以降皆さんに考えていただく素材としてお出ししてますので、その中で検討していただければと思います。以上です。

委員長：いろいろ考えてくださいますありがとうございます。私個人としても、この時点のアンケートでも非常にいいのかなとお話を聞いてて思った次第で、委員の皆様何か意見ありますでしょうか。お願いします。

委員：3番の選択肢を検討する上で教えて欲しいことが二点ほど。まず一点、これ多分事務局の方になると思うんですが、新7年生についてざっくりでいいんで、どれくらい潜在的に人数がいるか、もしわかれば教えてください。あと二点目は、これ多分学校の先生方になると思うんですが、式典等についてはコロナの状況だと、以前ほど式典開催の頻度や開催の仕方が従来とかなり大きく変わってると思うんですが、そのような状況下で制服の統一感とかはどのように考えてらっしゃるか、ご意見がもしあれば先生方

教えてください。以上です。

委員長：多分2件とも学校側の方からが回答しやすいのかなと思ったんですけども、もしあれでしたら回答いただければと思います。

委員：新7年生の人数ですね。現在のところ、全部で大体ですけどね、160人ぐらいですね。あと集会とか式典ですが、今コロナ禍のなので、大人数で集まる集会等はできない状況ですが、今後学校が再開した場合、まずは距離をとって、学年だけで集まるぐらいまでなら可能かなとは考えています。統一感というのは、異学年が集まるのであればちょっと制服が違くと統一感もなくなっちゃいますが、同学年であれば同じような、そのままで大丈夫かなと考えています。以上です。

委員長：ありがとうございました。

事務局：新7年生の人数というところで、まだあくまでも推計値でございますけれども、開校年度につきましては60名から70名ほどと推計をしております。

委員長：ありがとうございます。そうですね。一体感という意味では、当然すべて同じ制服とかっていうのがあればと思うんですが、先ほどの他の学校の事例とかお話を伺っていたら、結構ブレザーは一緒だけど、スラックスとかは自由だっていうところもあったので、例えばパーツチェンジ、フルモデルチェンジに加えて、自由なチョイスの仕方もあっていいのかなと他校の事例とかを見てて思った次第なんですけど、その辺も含めて案の追加とか、こういうふうにアンケートを取っていった方がいいとか、その辺皆さん何か意見あれば、この場で言っていただければと思いますけどもいかがでしょうか。お願いします。

副委員長：おっしゃったように、他校の事例の資料が今回いただいたものに入っていなかったの、それを委員にも見せていただきたい、送っていただきたいなというのがあります。あと、本当にブレザーだけしか決まってい

い学校もあるっていう話を聞いたので、それは全然ありだと思いますし、
そしたらそもそも経済的負担がとかいう話にならないので、ぜひその資料
を共有していただければと思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。事務局の皆さん、後日でいいので、今日の先
ほど画面共有した資料をですね、メール等でいただければと思います。他
皆さん意見ございますでしょうか。お願いします。

副委員長：はい。こちらアンケートを取るにあたり、1番のパーツチェンジ、
2番のフルモデルチェンジで、例えば、私は近所の方の意見としてなんで
すけど、ちょっとお伺いしたんですが、制服はあるべきなのかっていうと
ころです。なので例えば、アンケートをまず取るのであれば、3つ目に制
服はなしというか、自由っていうのを入れたらどれぐらいの方が投票され
るのかなっていうところを確認したいです。以上です。

委員長：ありがとうございます。そういう案があるんだというふうには私も非
常に思うんですけども、やっぱりただ聞いてしまうとアンケートが集まり
過ぎてしまうという可能性もあると思うんですよ。なので、多分制服が
なくなったときの一体感とか、デメリットもちょっと検討した上で実行し
ないと、いきなりやってしまってそっちだけに偏ると、いろいろ弊害もあ
るのかなと思っておりまして、その辺何か事務局の方で、他の事例とか何
か気になる点とかいろいろあれば教えていただければと思いますけどもい
かがでしょうか。

事務局：事務局です。今のご意見につきましては、多分この選択肢の中に入る
っていうよりも、その前の段階としてもしやるのであればですけども、制
服を作るか作らないかと、で作るってなってパーツチェンジとかフルモデ
ルチェンジっていうことになっていくのかなという気はします。ただいろ
んな今までのご意見、保護者さんとかにいろいろ聞いてますので、その場
合にやっぱりそのお子さん、制服がないと私服ですので、毎日同じってい

うわけには今度お子さん同士でいかないので、負担的にすごいかかるんだ
というようなご意見も聞いてますし、制服の方がやっぱりかからない部分
もあるんだってということも聞いているので、それはまちまちの部分があるか
なと思います。いろんな家庭がやっぱりありますので、その辺の状況を
踏まえたほうがいいのかなと考えています。また、もう一つとして考えて
いただかなきゃいけないのが、制服をフルモデルとかパーツチェンジだけ
じゃなく、今の制服をいつまで使うかっていうことも今後は皆さんに考え
ていただかなきゃいけないのかなと、それも課題だと思ってます。その中
でいろいろ聞いているのが、今のものを使ってもいいですよと、穴が開いた
りサイズが小さくなったから、そういうときに新しいのは決めた上で買い
換えましょうよっていう話をしてる中でも、どなたかが買いかえるとうち
も買い換えなきゃっていう思いが大きくなって、そう思ってたけど
も買い換えるようになってくるってということもあるという声も聞いていま
すので、そういったことも一応含めていただいて、どういったアンケート
をするかっていうのをやっぱり一番考えなきゃいけないのかなと。確かに
体操服とかと比べると、制服ってのはもう 10 万近く一回でいきますので、
それを考えるといろんな意見もあったものですから、我々としてはなるた
け今のを使える形で、学森とは差が出るような形が何かあるのかなと、そ
の場合にパーツチェンジであれば、先ほどもありましたけど、校章として
ついてるワッペンを取り外してもらって、新しい学校のワッペンを付ける、
もしくはネクタイだけ変えるって形になれば、最小限の負担、皆さん今の
ものを使うことは大丈夫ですよと買い換えるタイミングでやってください
ってなったものが、いやみんなが合わせるから買い換えなきゃとなった
としても、そのパーツチェンジであれば、最小限の負担で済むのかなって
いうことも考えて、パーツチェンジっていうのを提案させていただいたと
いう形にはなっておりますが、皆さんでいろんなご意見等も出てきますの

で、それぞれがいろんな学校さんを調べてもらうこともありなのかなと思いますので、会社さんとかではあれば、他の学校のお子さんの状況がこうなんだよっていうことも聞けるかもしれませんので、そういったことも含めて皆さんでどういったアンケートをするのか、アンケートの選択肢としてはどうするか、今の体操服・制服をどういうふう to 今後使っていくかっていうことも含めて検討していただければと思います。以上です。

委員長：ありがとうございました。ニーズを把握していくことはやっぱり大事なかなと思ってはいるんですが、やり方をいろいろ考えていかないとなかなか難しいのかなといったところは今聞いて思った次第です。そうですね、例えば学校の先生に聞ければと思いますけども、例えば制服とか、体操着がなくなった場合とか、なくした場合もしくは自由にした場合とかっていったときにいろんな考えられる問題とか、その辺学校側から何か意見あれば発言をお願いできればと思うんですけどもいかがでしょうか。

委員：なくなると、やはり統一感が全くなくなるということで、教室内の雰囲気が一変し、その落ち着いた学習環境とかもね、なかなか整理するのが難しくなるでしょうし、あとジャージとかがなくなった場合は、やはり対外試合とかで学校の識別もできないし、まともにも失われるというようなところは考えられると思います。以上です。

委員長：ありがとうございました。小学生のときは制服はなく私服で、中学生になったら制服だっていうのは昔からずっとそうやってる部分もあるので、必ずしも本当にそれがいいのかどうか、小学校6年生までやってて、中学生になったからいきなり私服が少ないからどうのこうのとかっていったところも、既成概念から思っていることだけであって、やってみたら問題ないかといったところはいろいろあると思うんですけども、その辺は皆さんとまた議論しながら少し決めていくのがいいのかなと思っています。体操着とかに関しても、先ほど先生から対外試合のときに同じ

っていうところもありましたけど、部活動のときも基本的にあれですか、体操着で部活動で他の学校で試合を行ったりとか、そんな形が一般的には多いですか。それとも、部活によってはそれぞれの部活のジャージとかがあるのかなと思ったりしていて、その辺は現状どうなってるのか少し教えていただければと思いますけどいかがでしょうか。

委員：よろしいですか。基本練習試合とか試合は、戦う場合にはユニフォーム等は当然ありますが、それ以外は学校のジャージで行動することがかなり多いかなとは思います。以上です。

委員長：ありがとうございました。お願いします。

委員：さっきの対外試合、部活動のことなんですけども、今茨城県では、確か部活動のあり方を考えるって言って、働き方改革の一つとして、そうすると、複数の学校でチームを組んだりとか、そういう学校から離れたところでの部活動っていうふうになっていくのかなと思うんですけど、特にこの研究学園中学校は中学生の人数もすごい少ないので、部活動というものが成り立たないんじゃないかっていうアンケート見てても保護者の方の意見等結構出てたので、その辺部活動の形っていうのは変わっていくのかなと思うんですけども、そこはどのようになるか。すいません、その点を教えてください。

委員長：これは何かありますか。

委員：本校もですね、実際は今、各部活単位でクラブチームに所属してるお子さん、私的のですね、あとは本校の部活所属というふうに分かれてますので、例えばサッカー、野球なんかは男の子たちには人気というか、一般的に部員数が多いというイメージはあるんですが、実は少なかったりするんですね。ですからその場合は、今度分かれて少ないっていうことであれば、近隣の学校との合同チームといいますか、そういった形で対外試合にも出場するっていうのは、県内も一般的にはなっています。以上です。

委員長：ありがとうございました。そういったところから、体操着のあり方っていうのも変わっていく可能性も高いのかなと思ってまして、対外試合の一体感のためだけに体操着の意味があるのであれば、意味が低くなってくるのかなっていう部分もあると思うので、いろいろ議論しながらと思っていますけども、いずれにせよ何かしら生徒とか児童、保護者にアンケートをとっていかないといけないかなと思うんですけど、なかなか制服や体操を一体的に聞くのもわかりづらいのかなと思うので、アンケートの取り方は制服と体操着を分けて、それぞれの使い方とか特徴とか将来性も含めていろんな観点からメリデメみたいなのをきっちりご説明した上で回答していくのがいいのかなと思っておりますので、それに当たって考えられることをこの委員会の皆様から意見出しをして、事務局の方にまとめていただければなと思っていますので、他意見とかお気づきの点があれば、皆様から意見出ししていただければと思いますけれどもいかがでしょうか。他校の事例とかも踏まえながら、他の市とかの事例とかご存知でしたらぜひ意見いただければと思います。先にお願ひしていいですか。

委員：すいません、ちょっとずれてるかもしれないんですけど、今回新しい学校がほとんど学森の生徒ということで、制服もほとんど学森の方の制服のままっていうのが大体だと思うんですけども、そういった場合にやっぱりパーツチェンジだと負担が少なくなるんですけども、学校の独自性のあるデザインっていうのも作っていきたいっていうのもあるのであれば、新7年生だけフルモデルチェンジをして、8、9年生を今までのパーツチェンジにしておいて、サイズとか買い換えるときにそのフルモデルチェンジしたやつにするとか、そういったのだとややこしくなってしまいますかね。

委員長：ありがとうございます。私の記憶だと、春日から学森のときも一気にすべてを買い替えるわけではなくて、確か最初の頃は混在して、サイズが変わったときに替えるということでもいいような形だったと記憶してるん

ですけども、事務局の方がその辺の状況わかれば教えていただければと思います。

事務局：はい、事務局です。春日から学森のときも、今のものをそのまま使ってもいいよと、買い替えるタイミングで買い替えたらっていうお話で委員会で決まったのだと記憶しております。ただ、今のお話の中で一つだけ気になったものが、8、9年生はパーツチェンジで7年生はフルモデルチェンジってなった場合に、ジャケットとかが全く違う色になった場合には、7年生と8、9年生はジャケットの色が全く違っちゃうので、そこはパーツチェンジした場合には、7年生たちとは差が出てくる部分があるのかなっていう気はしました。以上です。

委員長：ありがとうございました。この辺もニーズを聞きながら決めていかざるをえないのかなと思っているところですけど、意見ありましたらお願いします。

副委員長：事務局の方にもちょっと確認をしたいんですが、今度中学生ですね、春日に行かれていて、今回新設校に来る子どもたちはいますか。

委員長：事務局の方、よろしいでしょうか。学森の子たちだけではないかなと思うんですけど。その辺どうでしょうか。

事務局：事務局になります。春日の方はいらっしゃらないです。学区外の方はそうですけど、基本的に春日の方はいらっしゃらないです。

副委員長：全く行ってる子はいないっていうことでよろしいでしょうか。例えば、駅前の方たちマンションの方たちの中で、春日に行かれてるお子さんはいらっしゃらないですか。

副委員長：いますよね。

副委員長：と私も伺っているので、今回学区がそちらのマンションの方もこちらの新設校にいらっしゃるっていうことなので、春日も行かれてますよね。その子もこちらに今回来ますか。そのまま通うっていうことも伺っていま

す。受験もあるのでっていうのも聞いているので、どうなのかなと思いました。

事務局：事務局でよろしいですか。

委員長：お願いします。

事務局：基本的には、学園の森の学区を分ける形が、今のところ新しい研究学園の小学校の学区にはなっています。当然、今のお話でいきますと、駅前だけではなくこの学園の森の学区から、春日だけでなく他の学校区に行ってる人もいますので、新しい学区が決まったときにその学区内のお子さんたちを指定しますので、春日だけでなく葛城や沼崎とか二の宮とか他の学校に何かの理由があって行ってる方はいらっしゃいますので、春日だけっていうわけではないかなと。ただ、確率的に今どこに行ってるかってのは、お調べしないとわからない状況なので、想定されるのはそういうことが考えられるかなと思います。

副委員長：わかりました。そうすると制服もですね、皆さんフルモデルチェンジにするとかなり変わってしまうのかなと思うので、その辺を考えるとどうだろう、パーツチェンジっていうところも考えてもいいのかなと思うんですけど、アンケート取るに関して、今決めるという形でよろしいですか。

委員長：今日あれですかね、これからアンケートを取るために、事務局の方で具体的に動いてもらうための意見出しなのかなと私は思っていたんですけども、決めるまではしなくていいのかなと思ったんですが、その辺事務局の方々いかがでしょうか。

事務局：事務局です。今日は、こういったアンケートをやるには考え方やり方がありますよってお出しさせていただいたただけなので、次回以降ですね、実際4月に入ってから制服・体操服を決めてくようになるとと思いますので、それまでに皆さんに情報をお伝えしてですね、皆さんでまた新たな情報、いろいろなことも調べてもらうこともあるかなと思いますので、やり方等

を今後のためにお知らせをさせていただいて、次回以降いろんな意見を出していただければと思います。

副委員長：わかりました。ありがとうございます。

委員長：ということなので、何かお気づきの点とかあれば、お願いします。

委員：アンケートを取る際には、資料4で整理してもらったようなメリデメ表とかってというのは、考えるヒントにするために載せると思うんですけども、パーツチェンジの考慮すべき点ってところの、学園の森の制服に似たようなデザインになってしまうというところが何か中性的な書き方になっていて、デメリットなのか許容できることなのかというのが私はちょっと理解しづらくて、ここら辺は頭の整理が必要なのかなと思っています。もしかすると、その先生方からしてみれば、例えば100メートル先から離れたところから見て、生徒さんが学森の生徒とか研究学園の生徒か認識できないってようなことがあって、ちょっと悪い話して申し訳ないんですけど、例えば信号無視しちゃってるよっていう指導しなきゃいけないってときに、自分の生徒なのかそうじゃないかっていうのがわからないってようなシチュエーションとか何かあったりするとか、考え過ぎですかね、そこら辺先生の立場から見てどうなのかっていうのを教えていただけたらなというふうに思いました。

委員長：ありがとうございました。多分今日の意見とかでメリデメ表はもっと充実してくると思いますので、そこは次回事務局の方々また見せていただければと思いますけども、確かにお話にあったとおり区別がつきにくいとは思いますが、学校からどうですかね、何か意見あればお願いできればと思います。

委員：よろしいですか。そうですね、そのような状況ではちょっと指導しづらいというところは確かにありますが、かといって似たものは駄目ということではないので、それは仕方がないことですのでどちらでも大丈夫です。

以上です。

委員長：ありがとうございました。他何か皆さん、今後の検討に当たってのメリデメ表に役立つ意見とか、その辺あればお願いできればと思いますけどもどうでしょうか。お願いします。

委員：学校の先生方に一つ教えていただきたいのは、春日学森移行のときの制服の話の中で、制服は指導上、重要なアイテムであるという話をその当時の先生方からありまして、その制服がそろってないとその現場の先生方も指導上大変負担を強いてしまうと、そういうお話も伺ってありました。学森のころからちょっと時間も経ってますんで、そういう制服の指導上の重要性とかその辺ってのは、今も変わらずそういう話で通用するか、それとも時代が変わって今はそういうトーンは何か変化したのか、その辺あれば教えてください。以上です。

委員長：お願いしてよろしいでしょうか。

委員：中山お願いします。

委員：おっしゃるトーンから言うと、今は少し当時とは変わってきてると思います。やはり決められたもの、与えられたものを、我々もきちっとそこを守らせるという発想ではなくてですね、お子さんたちが今は自分たちでもルールを作ったり、自分たちで自己決定していくっていう方向で、これからは指導というか支援をしていくのがメインになってきますので、ですから必ずきちっとしたものをきちっと合わせるという、そこに大きくとらわれるということではないかと思います。ただ一方で、子供たちにもそれを投げかけて、どこまでを許容範囲とするかっていうのもまた別のことになってきましたので、当時との少しニュアンスと考え方は、今は少しずつ変わってきてるかなと思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。他皆さんいかがでしょうか。お願いします。

副委員長：二点ありまして、一点目は事務局にお聞きしたいんですけど、こ

それは絶対着なきゃいけない制服っていう話ですか、それとも着用を推奨する標準服っていう話ですか。他の学校では、ブレザー着て、スカートはグレーだったらチェックでもいいよっていう考え方があるんだったら、標準服としての考え方はありだっという意味なんですか。

委員長：先にその点から、事務局お願いしていいですか。

事務局：事務局です。お答えがちょっと難しいかなと思ひまして、というのは、それにお答えするには、多分一番最初に戻った形で、制服を作るか作らないかとなってくる部分もあると思うんですね。その上で制服を作るってなったときに、今画面共有させていただいたように、ジャケットだけ指定で、他は例えば色だけ指定とか、色じゃなくて色と形まで指定するのかっていうことは、皆さんでのお話し合いで決めていただくものと思ひますので、その辺、ジャケットは制服だと、でも下とかブラウスとかはこういうものを標準服として決めますっていうことなのかは、またお話し合いをしていただいてからなのかなと思うので、フルモデルチェンジにしても、例えばパーツチェンジだとしても、今回はジャケットはこれにしましょうよと、ただ、その他のものは青にしましょうとか白にしましょうとかを決めるか、それは標準服とするのかっていういろんなことが出てくるのかなと思うんですけども、ちょっと難しいです。

副委員長：わかりました。すごくわかりやすい説明でした。フレキシブルに考えていいということがわかったので、すごくありがとうございます。先ほど先生からの視認性という話がありました。それは逆に、学校関係者以外の良からぬ人からも、この子はこの学校の子だと分かってしまうというデメリットもあります。その点は、非常に気になります。以上です。

委員長：ありがとうございます。他皆さん、何かありますでしょうか。大丈夫ですかね。そろそろ2時間くらい経ってきましたので、終えたいと思ひておりますけども、事務局の資料4を改めて見ると、開校前に決定する、

開校後に決定するっていうような二つのアプローチがあったかと思うんですけども、今までのお話を聞いている限りはですね、こういったアンケートとか取っていくのであれば、開校前にいろいろニーズを取ってこの委員会で決定していくのがいいのかなと思ってるので、開校前に決定していくっていう流れでいいのかなと思います。この点について、皆さんいかがでしょうか。進め方はよろしいですかね。はい。基本的には開校前に決定し、この委員会をとおして決定していくっていう流れはさせていただいて、4月の早い段階からニーズ把握のためのアンケートをしていくといったところまでは、今日の意見で合意が取れているのかなと思っております。実際にあとアンケートの取り方については、もう少し議論は必要なのかなと思っておりますので、事務局の方で今日いただいた意見でメリデメとかを作っていたいただき、制服と体操服がごっちゃになった形で資料作っていただいているので、少し別々に分けてメリデメをしっかりと整理していただきつつ、過去の事例とかも踏まえながら資料を作っていただいて、次回改めて議論してアンケート内容を決定するみたいな流れがいいのかなとは思っておりますけども、皆さんいかがでしょうか。今の点について意見があればお願いできればと思います。進め方はそんな形でよろしいですかね。先ほどから意見があったとおり、パーツチェンジ、フルモデルチェンジ以外に、制服を自由にする場合という案も出てきたかと思いますが、その3点もしくはなしにする場合とか4点くらいでメリデメ表を作っていただいて、それを踏まえてまた議論できればなと思っておりますので、その辺事務局の方でお手数ですけども準備いただければと思いますので、そんな形で次回以降できればと思っております。事務局の皆様そんな形でよろしかったでしょうか。

事務局：大丈夫です。かしこまりました。

委員長：他皆様意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。では、議事が

ひととおり終了したかと思いますので、事務局にお返しいたします。

3 その他

事務局：事務局です。今まで進行いただきましてありがとうございました。資料1のスケジュールに則りまして、校章案の募集というところに今後入っていきます。スケジュールのとおりですね、来週の22日火曜日からというところで、進めさせていただきたいと思います。事務局の方で急ぎですね、保護者の方、児童の方にお配りするようなご案内の部分を作らせていただいて、委員の皆様にも事前にお送りさせていただいて、ご意見等を踏まえて、また修正等を加えて、この22日から募集を開始できるように準備していきたいと思いますのでよろしく願いいたします。あとは校章案の募集が終わりましたら、また次回、第5回の委員会の方ですね、3月上旬を目途に実施をさせていただきたいと思います。この場でまたスケジュールを確定するというのもなかなか難しいと思いますので、前回同様に委員長の方で委員の皆さんのご予定等集約いただきまして、この日であればOKですよといったところを後日ご報告いただく形でもよろしいでしょうか。委員長いかがでしょうか。

委員長：3月の3日と4日のどちらかで決めるってことですね。

事務局：はい。

委員長：わかりました。委員の皆様、また別途ご連絡させていただきますので、調整させていただければと思います。

事務局：ありがとうございます。以上で、第4回開校準備委員会を終わらせていただきたいと思います。最後皆さんから何かございますでしょうか。特段なければ、こちらで今回開校準備委員会を終了させていただきます。本日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

4 閉会